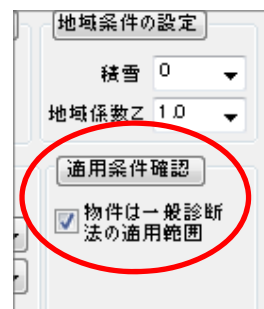


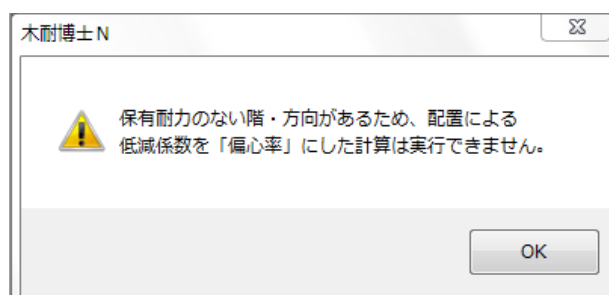
木耐博士Nの評価取得に伴う主な変更点

【入力時】

- ・建物概要に「適用条件確認」のチェックボックスを追加しました。新規物件作成時にはチェックが必須条件となり、これがないとその先に進むことができません。これは、本物件が一般診断法の適用範囲内であることを確認し理解した上でソフトを使用するための確認事項となります。（右図参照）



- ・建物概要の「構法/構造」（在来軸組構法・枠組壁工法・伝統的構法）を後から変更することができなくなりました。
- ・「部屋入力」されていない範囲への「柱・壁・開口・耐力壁」が入力不可になりました。
- ・壁下地材に「診断専用」の部材を追加しました。これは、診断時に現況の耐力評価を行うためだけの下地材であるため、補強設計時には「診断専用」の部材を選択することはできません。（表示ありません）
- ・保有耐力が全くない階及び方向がある場合は偏心率が計算できず、診断書を作成することができません。出力画面で耐震ボタンを押してもエラーメッセージより先に進むことができません。（下図参照）

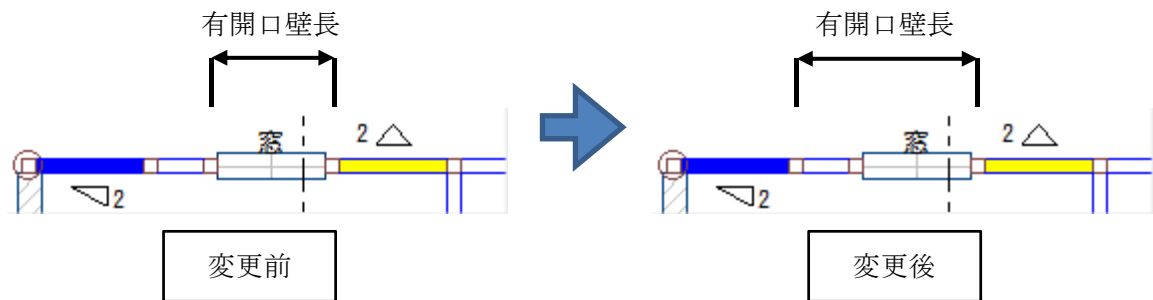


【出力帳票】

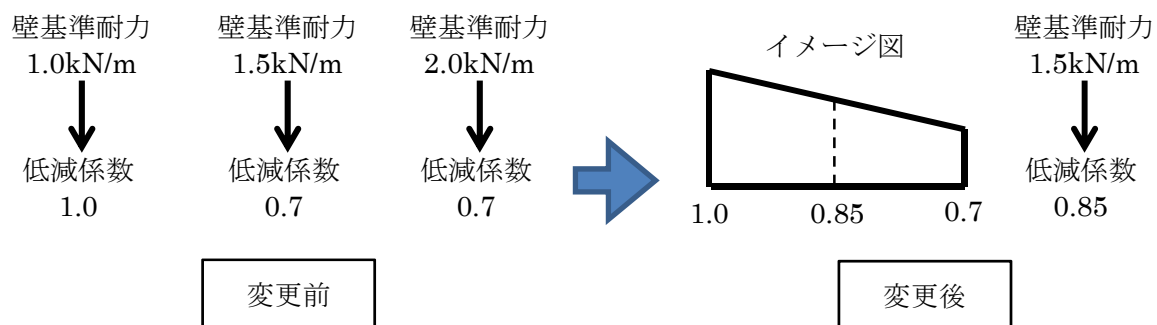
- ・出力帳票の表紙に、診断法の適用範囲・ソフトの適用範囲・注意事項を追加表記しました。これは、入力時にチェックした「適用条件確認」の内容を帳票の表紙に記載するものです。
- ・偏心率の重心位置計算時に「跳ね出しバルコニー」がある場合、ブロックN oに頭文字Bが記載されます。
- ・多雪地域での補強案出力の際、無積雪時における帳票が表示されない不具合を修正しました。

【評点算定に係る変更点】

- ・「壁・柱の耐力」における有開口壁長の算定時に、窓開口や掃出開口の有開口壁長の考え方が変更になります。開口部と連続する非耐力壁（白抜きの壁）がある場合、開口部と非耐力壁を併せた長さが有開口壁長となります。（下図参照）



- ・柱の接合部低減係数において、壁基準耐力が 1.0kN/m 超え 2.0kN/m 未満の場合、耐力に係わず一律で乗じていた低減係数（ 0.7 又は 0.85 ）が、壁基準耐力に乗じた値に変更になります。（下図参照）



- ・「偏心率算定」における重心算定に「跳ね出しバルコニー」「ポーチ」も重量としてカウントされます。これにより、偏心率変化に伴う配置低減係数の増減が生じる可能性があります。
- ・「4分割法」で配置低減係数を算定する場合に、4分割法の起点となる外周ラインとして、跳ね出しバルコニー・ポーチの最外端を選択します。これにより、跳ね出しバルコニー・ポーチの最外端からの4分割となる為、配置低減係数の増減が生じる可能性があります。

その他、ご不明点等ございましたら下記までご連絡ください。

エイム 株式会社
埼玉県川口市弥平 2-20-3
TEL: 048-224-8160
FAX: 048-224-8180

担当 嶋田（しまだ）・駒井（こまい）